



# 第1号

発行所  
公益財団法人  
全国学校農場協会

東京都渋谷区  
円山町2-20

**公益財団法人は、  
こんな事業と活動  
を行っています**

公益財団法人  
全国学校農場協会

理事長 日置 司明



令和2年度が始まって4カ月が過ぎました。例年であればこの時期の農業高校では、いたる所で動植物の息吹が感じられ、特に新入生達は播種や植栽を通して自然の営みの素晴らしさや芽吹く命の逞しさと尊さに感動と驚きを覚える毎日であらうと思います。

しかし、今年は新型コロナウイルスの感染拡大に伴って緊急事態宣言が発出され、全国規模での学校の休業措置が実施されました。農業を学ぶ者にとって、こ

の貴重な実感を経験する時期を逸したことは大変残念です。

さて、当財団法人も公益財団法人へ移行して8年目、賛助会員の積極的な支援を得て組織運営、諸事業・諸活動の展開も順調で所期の目的を十分に達成することが出来ていると思っております。また実施したその内容や結果の詳細については毎年の全国大会・総会での20分間の短い設定時間の中で報告してきたところです。しかし、今年度は前述コロナウイルス感染防止の観点から3密の回避、不要・不急の外出自粛等の強い要請がなされ、全国大会・総会はもとよりその他の諸会務、諸事業等も中止せざるを得なくなりました。ついでには諸活動の中止で広報記事の少ないこの機会に、会員の皆さんに当公益財団法人の役割と事業並びに活動の内容をより深く理解して頂くために、前事業年度の事業報告を兼ねて活動状況を説明したいと思えます。まず、定款に定める農業

教育の発展と振興並びに農業技術の向上を図る事業として、全国大会において3支部（北海道・関東・四国）の代表農業教諭による研究発表並びに講演事業として、各界のリーダーやプロフェッショナルを招聘しての講演会（演題：「21世紀はローカルと農の時代」コモンズ代表 大江 正章先生他）を開催しました。

また、農業教育研究協議会では研究局教育課程専門部会の森林・林業部会並びに畜産部会から農業教育に関する調査・研究成果の発表と協議並びに講演会（演題：「農山村再生―新しい動き―」明治大学農学部教授 小田切 徳美先生他）を開催しました。

農業教育功労者表彰は、全国8支部から140名の候補者の推薦があり、厳正な審査の結果全国137名に表彰状を、また3名に感謝状を各支部大会で授与しました。

フォーラム・シンポジウム等の開催については、農業女子フォーラムを中国支部で担当して頂き、岡山県

立高梁城南高校を事務局校として県農林水産部・県教育委員会の協力のもとで開催。地域住民や農業経営者・女性就農者、農業大学生・農業高校生等の幅広い参加者を得て将来の農業を展望して積極的に意見交換が行われ有意義で成果の高いフォーラムとなりました。

シンポジウムについては、農業高校支援機構との連携のもと、3F（食||Food 農||Farm 祭||Festa）をキーワードとして「我々はどこを目指しているのか」をテーマにオープンディスカッションを開催しました。農耕農村史、農村生活・文化等その領域を専門とする研究者、一般市民、農業教員、学生・生徒等多くの参加者を得て体験談や活発な意見交換が行われ、農業並びに農業教育の理解の深化と農村生活への啓発推進に大きく役立てることが出来る内容で参加者から好評を博しました。

学術・科学技術の振興を図る事業としては、農業実験実習講習会を全国6地区

で実施しました。この実験実習講習は教員免許状更新講習(4地区で実施)の選択領域(18時間)について文部科学省から認定されており、当年度の免許状更新講習対象受講者は39名でした。

また、免許法(実習助手単位)認定講習は、当公益財団法人より東京農業大学及び北海道酪農学園大学へ開講を要請し、開講大学と文部科学省との連携事業として実施しました。東京農業大学では科目「農業科教育法」「教育心理学」各1単位・受講者43名、北海道酪農学園大学では科目「農業概論」「教育方法論」各1単位・受講者39名でした。2大学とも受講者全員が所定の単位を取得し修了証を授与することができました。

地域文化(文芸・文化・芸術)振興に関する事業として、日本農文学会と共催し、全国農業関係高等学校エッセイコンテストを実施しました。全国から多数の応募作品が寄せられ厳正な審査の結果、最優秀賞に長野県佐久平総合技術高校

・小松 大晴君が入賞、農文学会機関誌に掲載するとともに当協会機関新聞並びにホームページに掲載・発表し広く紹介しました。

その他、優秀賞3篇、佳作2編が選定され全入賞者に賞状並びに副賞を授与しました。また、棚田学会と共催して農業関係高等学校農業・農村フォトコンテストを実施。当年度も全国から多数の応募作品が寄せられ、プロカメラマンを含めての厳正な審査の結果、生徒の部：最優秀賞に埼玉県立熊谷農業高校の篠田 渉君が、職員部の部：最優秀賞に長野県下高井農林高校・小松和也先生が入賞、作品を棚田学会総会々場で展示・発表すると共に主催団体機関誌に掲載・発表しました。

その他生徒の部：優秀賞2点、佳作2点、職員の部：優秀賞1点、佳作1点が選定され、全入賞者に賞状並びに副賞を授与しました。

その他、農業と農業教育の振興・啓発をする事業として機関新聞の定期発行、研究集録の刊行、農業学習

ノート・実習手帳の発行等の刊行事業にも積極的な取り組みをしました。

また、JA中央会との協催・支援事業として、和牛甲子園“の実施に協力し、和牛の肥育に取り組む生徒達の実践学習と活躍の機会・場の設定を支援してきました。

以上、令和元年度に実施した事業の概要を説明しましたが、公益財団法人の役割と内容について更に理解が深まることを願っています。ご承知の通り、公益財団法人は法人格を有し、法令(法人法)に基づいた組織並びに事業運営をしなければなりません。当公益財団法人全国学校農場協会も任意団体である全国高等学校農場協会とは法的立場は異にしますが、定款に定める目的を達成するため実施事業・活動の検証を怠ることなく、会員は基より広く一般の人々へも公共的利益を供するための事業と活動を推進して参ります。今後とも宜しくご協力頂きますようお願い致します。

**令和2年度 農業実験実習講習会(全7地区) 中止!!**  
**並びに農業実習助手単位認定講習(東京農業大学・酪農学園大学)が中止**

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、各講習会が中止となりました。

これまで、各講習会の開催に向けて、ご指導とご支援をいただき、準備に当たられた各事務局校並びに、関係大学の皆様方に感謝申し上げますとともに、会員の皆様には中止の決定についてご理解の程よろしくお願ひ申し上げます。

**只今作品募集中!!**

- ①第6回農業関係高等学校農業・農村フォトコンテスト(応募締切り11月27日)
  - ②第12回エッセイコンテスト(応募締切り10月28日)
- 詳細は農場協会HPを  
 ごらん下さい。

**第4回 和牛甲子園参加校募集中**

(応募期間)

8月11日～9月11日

(開催日)

令和3年1月14日・1月15日  
 詳細はHPを  
 ごらん下さい。



人類が直面する問題に答える。それが実学。

温暖化、資源枯渇、食料危機、絶滅危惧種の増加など研究対象は農学を起点に、あなたが想像する以上に広がりを見せています。

このような問題に答えていく学びや研究を在学中に体験することを実学と呼んでいます。

人類が直面する問題に答えていく人材を世の中に還していくことが東京農大の普遍的な使命なのです。

**東京農業大学**  
 TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE  
 〒156-8502東京都世田谷区船橋1-1-1  
<https://www.nodai.ac.jp/>

農学部	応用生物科学部	生命科学部
地域環境科学部	国際食料情報学部	生物産業学部